

	課題分析	授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> 数を5や10のまとまりで考えることが苦手な児童がいる。一方で家で次の学年の学習までしている児童もいる。 問題文の意味を理解できなかつたり、よく読まずに問題に取り組んだりして、間違えてしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別での個別指導を丁寧に行い、進度に合った指導をする。追加の問題を用意して、力を更に伸ばせるようにする。 指導者が問題を読み上げたり、ポイントとなる言葉を繰り返し伝えたりしていく。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 数の合成、分解の理解には個人差があり、今後も操作活動を取り入れて理解の定着を図り、確かな力を付けさせていく必要がある。 長さやかさなどの、量的概念が未熟な児童が多い。十分に具体物の操作を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 理解が不十分な児童には、半具体物を操作させて、数の仕組みを理解できるようにする。 適用問題に取り組む時間を授業展開後半に設定し、本時の学習の理解度を確かめたり学習したことを練習したりできるようにする。 長さやかさなどの量感覚は、生活の中でも触れながら習熟を図る。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 学力の差が大きい。家や塾等で、学校の学習内容を既に知っている児童がいる。しかし、かけ算九九を覚えていない児童がいたり、筆算の仕方もおぼつかない児童の姿も見られたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別学習のじっくりコースを最小限の人数にし、一人一人に指導する時間を増やす。 かけ算九九表を渡して、自分で答えを導き出せるよう支援する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを書くときに、図や数直線などで表すことが苦手な児童がいる。 友達の考えを共有せず、一つの考えが出せたらそれに固執してしまう傾向がある。 計算の技能に課題があつたり、数の仕組みの理解が足りなかつたりする児童がいる。全体の授業の中で苦手意識をもっている児童にどう取り組ませていくかが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えを聞いて参考にしてもよいことを伝えていく。ヒントカードなどを用意して個別の声掛けを意識して行っていく。 既習事項を基に考え、表現させる時間を多くとるようにする。ペア・トリオ・グループで問題解決できるよう学習形態を工夫する。 毎時間前時の既習事項を復習する時間を設ける。学びタイムの時間を利用して計算問題に取り組ませる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 計算力の差が大きく、かけ算やわり算など、2～3年生の既習事項が定着していない児童が少なくない。そのため、5年生の学習内容を理解するまで至っていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の個別指導やサマースクールを活用して、補習を行う。また、単元の指導事項に応じて九九カードやわり算のやり方カードなどを配布して、5年生の学習内容に取り組めるように支援する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 計算力の差が大きい。文章題において、分かっていること、聞かれていることを読み取る力が弱い児童がいる。 四捨五入や、約分の仕方など、基本的な操作でのつまずきが見られる。 比較量と基準量の関係に着目して倍を考えることが難しく、立式できなかつたり、根拠があいまいなまま立式してしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識の定着を図るため、コースごとの適用問題を用意し、取り組む。 習熟の遅いコースでは、T2がついて個別指導にあたる。 数直線の指導を継続して行い、立式ができるよう支援していく。
専科	<p>図工</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体的に、話を聞いたりアイディアスケッチを描いて計画を立てたりすることが苦手である。 <p>音楽</p> <ul style="list-style-type: none"> リコーダーの難しい運指を覚えることや、タンギングが難しく、苦手意識をもっている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入の中で、興味を引くような表示や言葉掛け、場の設定を工夫する。アイディアスケッチの前に活動を入れ、アイディアを考えて描く手だてにする。 簡単な指使いの興味のある曲から導入し、毎時間の始めに運指の確認をしてから練習に入るようにする。